

# CBC NEWS LETTER

Vol.9, No.1, May 2008

国立大学法人  
小樽商科大学ビジネス創造センター



ニュースレター [Vol.9, No.1]

## I N D E X

1. 平成19年度産学官連携研究成果報告会を開催しました
2. 平成19年度小樽商科大学地域活性化セミナー「"小樽の魅力"を売り込む工夫」を開催しました
3. 第5回ビズ・サイエンスカフェおたる「小樽ガラス誕生の瞬間」の開催に協力しました
4. 平成20年度ビジネス創造センター体制
5. 地域連携推進コーディネーターをご紹介します
6. 主要日誌

## 1 平成19年度小樽商科大学ビジネス創造センター(CBC)産学官連携研究成果報告会を開催しました

3月7日(金)に札幌サテライト大講義室にて「小樽商科大学ビジネス創造センター(CBC)産学官連携研究成果報告会」を開催しました。今回の報告会は札幌医科大学との共催で、同大との包括連携協定から生み出された共同研究などについて2本の報告を行いました。当日の参加者は43名で、テーマが医療関係だったため医療関係者の出席が多く、特に実務に携わる人からはアンケートの回答が多く寄せられる等の反響がありました。

報告会の内容は以下のとおりです。

第1報告 「看護師の経験学習プロセスに関する研究」

報告者: 松尾 睦(小樽商科大学大学院・商学研究科・教授)

丸山 知子(札幌医科大学保健医療学部長・教授)

第2報告 「北海道で国際取引契約の実務を学ぶー国際取引契約研究会ー」

報告者: 中村 秀雄(小樽商科大学大学院・商学研究科・教授)





## 2

## 平成19年度小樽商科大学地域活性化セミナー 「小樽の魅力」を売り込む工夫を開催しました

本学ビジネス創造センター主催の地域活性化セミナーが、平成19年3月15日に小樽運河プラザ三番庫を会場として開催されました。今年と同セミナーは「小樽の魅力」を売り込む工夫」と題して、本学アントレプレナーシップ専攻の近藤公彦教授と本学社会情報学科の木村泰知准教授の講演を基調にして、小樽の魅力とは何か、その魅力を誰にどのように伝えていくのか、そのために必要な新しい工夫は何か、という議論を参加していただいた多くの市民のみなさまと共に議論しました。

セミナーの前半は、2名の講師がそれぞれの専門の立場から地域活性化のヒントを解説しました。マーケティングが専門の近藤教授は「売れるしくみ 売くふう ～誰でも分かるマーケティング入門～」と題した講演のなかで、マーケティング的発想で地域の魅力を発見し、これを売り込んでいくことが、今後の小樽の活性化、なかでも観光産業の振興において重要であると指摘がありました。木村准教授による講演「チイキの魅力を発信するしかけ～ウェブを活用した地域おこしの取り組み～」では、専門の言語処理を応用したウェブコミュニティを小樽活性化の起爆剤にする試みが紹介されました。講演の後には、実際に携帯電話から写真を投稿してウェブ上で共有するデモも行われ、小樽フィルムコミッションと産学官連携によって映画などの撮影場所に付加価値を与えて観光資源とするアイデアなども紹介されました。



後半は、ビジネス創造センター副センター長の大津准教授がモデレータとなって、会場からの質問や問いかけを基に「小樽の魅力」について議論を深めました。会場からは「小樽に住む人が小樽のことをもっと知るべき」といった意見や、「インターネットの情報は信頼できるのか」などの質問が寄せられ、両講師からは「観光客は小樽へどういう想いをもって来てくれるかを読むことが大事」、「責任ある良心的な情報が提供されるような仕組みが必要」と回答がありました。最後に本セミナーの企画主旨である「市民自身が主体的に小樽の魅力を発見しそれを発信してということが真の小樽活性化に繋がる」というメッセージを参加者全員が共有して今年度の地域活性化セミナーは幕を閉じました。



## 3

## 第5回ビズ・サイエンスカフェおたる 「小樽ガラス誕生の瞬間」の開催に協力しました

平成19年3月23日に第5回ビズ・サイエンスカフェおたるが開催されました。「ものづくり・ひとづくり・まちづくり」がコンセプトのこのイベントはこれまでもさまざまな“知っていそうで知らない小樽”を紹介してきましたが、今回のテーマは「小樽ガラス」で、ケースブローイングの安井顕太さんによるガラス工芸作家の生の声(+裏話)に加え、吹きガラス製作の実演をしながらの解説がなんと目玉企画でした。

当日はまず、利尻やみのやさんの“特別室”で、吹きガラス製作の工程とその道具の解説とガラス製作の世界に飛び込んだ逸話など、普段聞くことができない大変興味深いお話を伺いました。会場からは「ガラスの色は化学反応で出るの?」といった素朴な質問がたくさん飛び出し、ガラスの世界の意外な奥深さが会場の参加者に伝わったように思います。その後、参加者全員がケースブローイングの工房前に移動し、ガラスと大皿の製作実演を見学しました。さすがに日頃大勢の観光客相





3

手に実演しているだけあって、安井さんはマイクをつけても自然体でしたが、時折見せる鋭い眼光は職人らしさを感じさせるものでした。壺状のガラスが一瞬のうちに皿に変化する様子に観客から感嘆の声があがり、「小樽ガラス誕生の瞬間」は、作品としてのガラスだけからは伝わらない本当のガラスづくりの魅力が確実に実感できた瞬間でもありました。



4

## 平成20年度ビジネス創造センター体制

平成20年度のCBCの組織体制をお知らせいたします。

センター長 海老名 誠(ビジネス創造センター教授)  
 副センター長 大津 晶(商学部社会情報学科准教授)  
 総務部主任 和田 良介(商学部経済学科教授)  
 スタッフ 中村 秀雄(大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻教授)  
 研究部主任 近藤 公彦(大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻教授)  
 スタッフ 齋藤 一郎(大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻教授)  
 スタッフ 前田 東岐(商学部商学科准教授)  
 スタッフ 松尾 睦(大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻教授)  
 情報資料部主任 田中 幹大(商学部商学科准教授)  
 スタッフ 平沢 尚毅(商学部社会情報学科准教授)  
 スタッフ 木村 泰知(商学部社会情報学科准教授)

CBCフェロー 奥田 和重(副学長・大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻教授)

CBCフェロー 瀬戸 篤(大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻教授)

### 運営会議委員

鶴沢 秀(経済学科) 高田 聡(商学科) 河野憲一郎(企業法学科) 行方 常幸(社会情報学科)  
 八木 宏樹(一般教育等) 裴 岨(言語センター) 玉井 健一(アントレプレナーシップ専攻)

### ユーザーエクスペリエンス研究部門

研究部門長 平沢 尚毅  
 学術研究員 尾形 慎哉 桶谷 利幸 葛西 秀昭 山田 菊子(河合) 黒田 英雄  
 事務補佐員 浅村 次美

地域連携推進コーディネーター 富樫 誠

### 事務局

酒井 秀人(総務課研究協力係長) 持田 立男(総務課研究協力係) 今野 茂代(助手)  
 村上 弘美(事務補佐員)

5

## 地域連携推進コーディネーターをご紹介します

はじめまして。地域推進連携コーディネーターの富樫誠と申します。小樽市と小樽商科大学との包括連携協定による人的交流の一環として、本年4月1日付けで小樽市から派遣されてまいりました。CBCでは地域連携推進コーディネーターとして、主に市をはじめとする行政機関との調整をしながら、ビジネス相談を円滑に進めるお手伝いをしてまいります。相談内容によっては、本学内の先生方や、他大学のコーディネーターなど、関係先と幅広く連携を取ってまいります。「行政機関は敷居が高い」ある





# 5

いは「行政機関とは直接関係ない」という場合でも、ざっくばらんにご相談いただければ幸いです。私自身もこれまでと全く異なる環境で、すべてが未知数ではありますが、熱意をもって相談者の皆様に接していく所存であります。市役所勤務で13年間、主に窓口職場で接客にあたってきた経験を生かし、相談者の皆様に親しみを与え、かつ信頼してもらえるコーディネーターになれるよう、日々努力をしまいたいと思います。

近年、CBCは大学発ベンチャーの創出だけでなく、産学官連携のもと地域経済活性化に繋がる支援へと活動範囲を広げております。

このようななかで、小樽市との包括連携協議が結ばれたことは、産学官連携の実践のうえで極めて意義深いことです。中核を担う我々CBCといたしましても、これまで以上に迅速かつ幅広い対応が可能になりますので、本学や産業界との橋渡しとして、積極的に案件に関わってまいります。

CBCはこれまでも、小樽・後志・道央圏の活性化を第一に考え、活動を通じて地域の活性化に尽くしてまいりました。

活動の基盤たる地域が活性化なくして、産も学も官も立ち行きません。これからはそれぞれの活動分野を通じて、地域社会に貢献する必要性が高まってまいります。これまで地域の活性化にあまり興味がなかったという方も、ぜひ我々CBCの門を叩いてください。センター長の海老名をはじめとするCBCスタッフ一丸となって、皆様をサポートしてまいります。

(プロフィール)

昭和45年12月15日 北海道恵庭市生まれ

平成元年 3月31日 北海道立札幌西高等学校卒業

平成 6年 3月31日 北海学園大学経済学部卒業

平成 7年 4月 1日 小樽市役所勤務(市民部総合サービスセンター、福祉部保護課、財政部市民税課を経て、現在は産業港湾部産業振興課付)

ストレス解消法は、可能な限り体を動かすこと(通勤も徒歩)、お酒を(翌日に差し障るほど)飲むこと。

# 6

## CBC主要日誌

CBC運営委員会	
3月24日(月)	第5回ビズ・サイエンスカフェおたる「小樽ガラス誕生の瞬間」(於:みの屋)協力
4月 9日(水)	第1回主任会議
4月18日(金)	第1回運営会議 審議:1) CBCスタッフの追加について 2) CBC学外協カススタッフの追加について 報告3件
5月 8日(木)	第2回主任会議

# 7

## 投稿案内

ニュースレターはCBCに関する情報をタイムリーに開示するだけでなく、CBC関係者相互の情報交換の場でもあります。CBC関係各位の積極的な投稿をお待ちしています。

投稿、問い合わせはEメールにてお願いします。投稿は随時受け付けておりますが、投稿原稿の採否、掲載号の決定はCBC情報資料部に御一任ください。

○ 投稿先 小樽商科大学ビジネス創造センター情報資料部(田中幹大)

Eメール: [tnk@res.otaru-uc.ac.jp](mailto:tnk@res.otaru-uc.ac.jp)

## 編集後記

このたび小樽商科大学ビジネス創造センター(CBC)のニュースレターVol.9, No.1を発行することができました。これも関係各機関・各位のご協力の賜であります。より充実したニュースレターにするために、今後ともみなさまのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(情報資料部)

国立大学法人

小樽商科大学ビジネス創造センター (CBC)

〒047-8501 小樽市緑3丁目5番21号

事務室 TEL 0134-27-5290

FAX 0134-27-5293

Eメール [cbcjimu@office.otaru-uc.ac.jp](mailto:cbcjimu@office.otaru-uc.ac.jp)

ホームページ <http://www.otaru-uc.ac.jp/cbc/>